

平成17年度高等専門学校機関別認証評価委員会（第3回）議事録

- 1 日 時 平成17年9月21日（水）10：30～14：00
- 2 場 所 学術総合センター 11階 1113・1114会議室
- 3 出席者
（委員） 青木，東，神谷，佐藤，椿原，徳田，中島，長島，室津，安田，
柳，四ツ柳，米山の各委員
（事務局） 荒船理事，長谷川理事，川口評価研究部長，野澤教授，
小林客員教授，加藤評価事業部長，八田評価第2課長
- 4 議事内容（：委員，：事務局）

委員長 これより，第3回高等専門学校機関別認証評価委員会を開催いたします。

議事に先立ちまして，神野委員から委員辞任の申し出があり，8月15日付で承認されたことをご報告いたします。続きまして，認証評価機関として認証を受けたことについて，事務局から報告してください。

この認証について，7月12日付で文部科学大臣から認証をいただきました。7月11日，12日にかけての評価担当者に対する研修の際に出席いただいた各委員には既に報告いたしました。当委員会としてまだ正式に受けたことを報告できていませんでしたので，この機会に報告をいたしたいと存じます。

参考資料1の2枚目ですが，この認証にあわせて，文部科学省から意見としていただいたペーパーです。これは中央教育審議会大学分科会の認証機関の認証に関する審査会から大学分科会へ報告があった事項を主な意見として取りまとめたものですが，評価に当たった留意点について，文部科学省から説明がありました。

まず，1点目ですが，高専については5年一貫の実践的・創造的技術者の養成という役割・機能を十分に踏まえて評価を実施することが重要である。個々の高専の個性，特色を一層伸長する評価を実施することが必要である。

2点目として，校長の恒常的・全校的な状況の把握。校長のリーダーシップが発揮されているか。このことについては，5月31日の当委員会でもご議論はいただいたわけですが，大学との並び等もありまして，特に校長のリーダーシップが発揮されているかの部分については，今後の評価結果の検証等を踏まえて適切に対応するようご意見としていただいたものです。

次のページについては，今回，当機構の高専の認証機関としての審査と他の大学認証評価機関に関する審査があわせて行われたものですから，認証評価機関としての共通的な課題に対する意見としていただいたものです。

1点目として，評価員に対しての研修等を通じて，共通理解のもとで適切に評価を実施していただく必要がある。

2点目として，毎回の評価結果の検証等を踏まえつつ，公正・的確かつ特色ある評価を実施するためには，不断に評価基準，方法等の見直しを行うことが重要である。

3点目として，直接高専についてというわけでもありませんが，各評価機関が相互に情

報交換、連携等を行っていくことが重要である。

以上、全体で5つの点を踏まえて今後評価に当たっていただきたいということを、文部科学省からご意見としていただいたものです。認証評価については以上です。

委員長 これからの議事について、現在各評価部会において書面による分析結果についての審議が行われていますが、部会相互の調整を図るために、運営小委員会を開催したいと思います。運営小委員会の委員は認証評価委員の委員長が指名することとされていますので、各評価部会及び財務専門部会の部会長、副部会長及び認証評価委員会委員長、この11名をお願いします。本日欠席の委員には、事務局からお知らせください。

(運営小委員会開催のため中断)

委員長 認証評価委員会を再開します。事務局から、配付資料の確認をお願いします。

配付資料として、「書面調査による分析状況」及び「訪問調査時の確認事項」(案)になります。運営小委員会の意見等を踏まえ、また確認事項等も整理し、こういう形で各高等専門学校に書面調査段階における分析状況をお知らせすることとしております。については訪問調査時に教職員との面談等で確認する事項ですので、網かけの部分とともに、対象校に送付する際には削除します。

委員長 それでは、先程の運営小委員会について簡単に報告させていただきます。まず、これはまだ確認できていない、あるいは確認すべきであるという事項に関して、部会間でアンバランスにならないよう調整し、意思を統一しておくという趣旨で検討しました。具体的な内容として、JABEEの目的が高専によっては混乱しているようなところがあり、これについては部会間で意見が分かれていないので、今後も注目すべきであるという意見がありました。それから、校長のリーダーシップに関する評価の仕方に関連して、人事に関わる校長のアクションなどについては、実際に面談をしなければ色々なことを聞きただせないため、校長との面談は重視すべきであるという意見が多数ありました。それから、定員割れを起こしている専攻等に関しては、改善策につながるような対応をしていただく必要があるのではないだろうか、また、一般的にいろいろ問題等があると判断されるように読み取れる場合に、それはなぜそうなったのかという分析的な視点を持つ、あるいは確認をしていくというアクションが必要であろうという意見が共通してありました。なお、これは確認ですが、あくまでも修正は、運営小委員会での審議結果を踏まえる必要があるということです。

手続として、最終決定は評価委員会の了承を得る形になります。そこで、評価委員会として、評価委員会委員長、副委員長に一任していただければ、部会長、副部会長の確認、了承をいただくという手続をとった上で、対象校に送付という形をとりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

委員長 委員会の責任において最終的に整理するということですが、スケジュールを考慮して、委員長、副委員長にご一任いただければと思います。

この認証評価は昨年度試行、今年度本審査ということで、まだ2年目ですので、高専から完璧な自己評価書が出てくるということは難しかったということです。こちらの説明の仕方も改善していかなければいけませんし、対象校においても書き方について習得していただくということで、来年度へ向けての説明会を11月の末ごろに予定しておりますので、それに向けていいものになるように努力していきたいと思います。よろしくお願いたします。

委員長 それから、自己評価書が公開されるということに関して、どこまでその内容を

我々が評価報告書中に書くべきかという問題提起もありましたが、一般的にある程度は書かないと、読み手にとっては非常にわかりにくい報告書になりますので、今までどおり書くということを前提にした方がいいのではないのでしょうか。受審校の自己評価書の文章をそのまま写すということでは決してありませんが、最終的な評価報告書の公表時に審議の過程とまたもう1度合わせて、何か補足するところがあれば入れるし、あまりにも重複するのであれば再考するということで、まだ議論を続けることにしたいと思います。

それでは、今後のスケジュールについてご説明ください。

今後のスケジュールとして、本日ご議論いただいた点について事務と委員長、副委員長で調整をした後、訪問調査の3～4週間前までに、対象校に書面調査段階の分析状況を送付いたします。

その後、10月24日から仙台電波高専と沼津高専を皮切りに、約1カ月半にわたり訪問調査をそれぞれの担当委員にお願いすることになります。最終的には、広島商船高専が12月8日に訪問調査が終了することとなっております。訪問調査終了後、各評価部会を開催し、評価報告書原案を作成します。その後、運営小委員会で部会間の調整をはかり、認証評価委員会で評価報告書案の決定をしていただくこととなります。

委員長 それでは、以上をもちまして本日の委員会を終了いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。

了